

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

ACTA UROLOGICA JAPONICA

Vol. 34, No. 2 February 1988

泌尿器科紀要

第34巻 第2号 1988年2月

【原著】

抗ヒト N-myc タンパク抗体を用いたヒト胎児中腎の免疫組織化学……………川原 昌巳・ほか…	207
薬物起因性急性腎不全発症に関する実験的研究： 水欠乏性脱水時の低分子デキストランおよび Kanamycin 併用による 腎障害とその回復力……………石川 英二…	215
尿中尿酸測定キット (Sigma) の改良使用法……………戎野 庄一・大川 順正…	225
上部尿路結石に対する ESWL: X線陰性結石……………田部 茂・ほか…	231
三樹会病院における経皮的尿管結石摘出術の経験 —ESWL・PNL 併用療法を中心として—……………中嶋 久雄・ほか…	237
三樹会病院における経皮的尿管結石摘出術の経験 —PNL 単独療法を中心として—……………中嶋 久雄・ほか…	240
上部尿路疾患に対する Endourology による治療経験……………山口 聡・ほか…	243
先天性腎盂尿管移行部狭窄に対する腎盂形成術の手術成績……………田島 和洋・ほか…	249
膀胱腫瘍におけるモノクローナル抗体を用いたT抗原の検索(英文)……………横山 雅好・ほか…	255
膀胱腫瘍における Thomsen-Friedenreich Antigen の研究……………深津 英捷・ほか…	260
尿管皮膚瘻術後のストーマケアについて……………和志田裕人・ほか…	268
Kock 回腸膀胱による尿路変更術 —合併症と問題点について—……………荒井 陽一・ほか…	272
男性頸髄完全損傷患者の尿路管理における経尿道的外括約筋切除術に 関する考察……………百瀬 均・ほか…	280
前立腺肥大症に対する経尿道的切除術標本よりの前立腺偶発癌の診断法……………村上 信乃・ほか…	287
<i>Chlamydia trachomatis</i> 男子尿道炎の臨床的検討……………松田 公志・ほか…	292
陰茎癌の臨床統計……………松尾 康滋・ほか…	297
インポテンツに対する血管拡張剤の使用経験……………安本 亮二・ほか…	301
鼠径部停留睾丸の超音波診断……………小嶺信一郎・ほか…	305
精索静脈瘤の臨床的観察 第1報: 臨床的観察……………安本 亮二・ほか…	309
精索静脈瘤の臨床的観察 第2報: X線造影像と内精索脈圧について……………安本 亮二・ほか…	312
精索静脈瘤の臨床的観察 第3報: Santorini 静脈叢を介した 静脈還流がみられた精索静脈瘤の1例……………安本 亮二・ほか…	316

【症例】

線溶療法を試みた腎動脈塞栓症の1例……………谷口 隆信・ほか…	318
脾, 脾体尾部, 左横隔膜約1/3の合併切除を要した左腎細胞癌の1例……………窪田 理裕・ほか…	322
腎偽腫瘍の1例……………山中 吉郎・ほか…	326
後腹膜過誤腫の1例……………河原 優・ほか…	330
後腹膜神経節腫の3例……………岩佐 厚・ほか…	334
尿道血管腫の1例……………玉井 秀亀・西山 直樹…	340
女子尿道憩室の13例……………三品 輝男・渡辺 康介…	343
肝転移をきたした非セミノーマ睾丸腫瘍の治療……………増田富士男・ほか…	351
単精巣の3例……………酒本 護・ほか…	356

【統計】

京都市立病院泌尿器科における5年6カ月間 (1981年7月~1986年12月)の入院患者および手術統計……………小松 洋輔・ほか…	359
神戸市立中央市民病院泌尿器科における入院患者臨床統計 (1982年1月~1986年12月)……………松尾 光雄・ほか…	366

【治験】

徐放型 LH-RH analogue, ICI 118630 (Zoladex®) による 前立腺癌内分泌療法……………宇佐美道之・ほか…	369
性器ヘルペスの臨床的検討とアシクロビル錠による治療成績……………熊本 悦明・ほか…	383
Ofloxacin による複雑性尿路感染症の治療……………吉田謙一郎・ほか…	394
前立腺肥大症術後の血尿に対するトロンビンの効果について……………桧垣 昌夫・ほか…	403

購読要項 (1986年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料 8,000 円 (送料とも) を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772 番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部宛、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投稿規定 (1988年1月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、臨床統計、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 総説、原著論文、臨床統計、そのほかの普通論文の長さは、原則として、刷り上がり本文 5 頁 (400 字 × 20 枚)、図 (Fig.) 10 枚、表 (Table) 10 枚までとする。
 - (2) 症例報告の長さは、原則として、刷り上がり本文 3 頁 (400 字 × 12 枚)、図 (Fig.) 5 枚、表 (Table) 3 枚までとする。
 - (3) 和文原稿は B 5 版 400 字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなし、清書する。年号は西暦とする。文中欧米語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め (ただし、文節の始めに来る場合は大文字)、タイプで明瞭に記載する。
ワープロを使用する場合も B 5 版原稿用紙に 1 枚 20 × 20 字とする。
 - (イ) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名 (教授、部長、院長、科長、医長など)、著者名の順に和文で記載する。下段に筆頭者名と、2 語からなる running title を付記する。
例；山田・ほか：前立腺癌・PSAP
 - (ロ) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、主任名、5 語 (英文) 以内の Key words、抄録本文の順に B 5 版ダブルスペースでタイプし、別にその和訳をつける。ワープロ原稿可。
 - (4) 英文原稿は A 4 版原稿用紙にダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、主任名、Key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず) の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録本文の順に記した和文を付記する。
 - (5) 数字はすべて算用数字を使用し、単位は m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μg, %, °C などとする。
 - (6) 和文、英文原稿を問わず図、表、写真などはそれぞれ台紙に貼付し、それらに対する説明文は別紙に一括して Fig. 1. ..., Fig. 2. ..., Table 1. ..., Table 2. ... などと一覧表にする。説明文は英文を原則とする。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。写真はトリミングし、図・表は誤りのないことを十分確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい (コピー不可)。様式については本誌の図・表を参照する。写真は明瞭なものに限り、必要なら矢印 (直接写真に貼付) などを入れ、わかりやすくする。
 - (7) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所を本文の文脈順に入れる (アルファベット順不可)。その数は 30 までが望ましい。和文は楷書で、欧文 (ワープロ可) はダブルスペースでタイプする。
例：山田^{1,3,7)}、田中ら^{8,11-13)}によると...

雑誌の場合—著者名 (全員)：標題。雑誌名 巻：最初頁—最終頁，発行年

例 1) Finney RP, Sharpe JR and Sadlowski RW: Finney hinged penile implant: experience with 100 cases. *J Urol* 124: 205-207, 1980

例 2) 竹内秀雄, 上田 眞, 野々村光生, 飛田収一, 大石賢二, 東 義人, 岡田裕作, 川村寿一, 吉田修: 経皮的腎碎石術 (PNL) および経尿道的尿管碎石術 (TUL) にみられる発熱について。泌尿器科紀要 33: 1357-1363, 1987

単行本の場合—著者名 (全員)：標題。書名，編集者名，版数，巻数，引用頁，発行所，出版地，発行年

例 3) Robertson WG, Knowles F and Peacock M: Urinary mucopolysaccharide inhibitors of calcium oxalate crystallization. In: *Urolithiasis Research*. Edited by Fleisch H, Robertson WG, Smith LH and Vahlensieck W. 1st ed., pp 331-334, Plenum Press, London, 1976

例 4) 辻 一郎, 小柳知彦: 小児泌尿器科疾患. 市川篤二, 落合京一郎, 高安久雄編, 第 1 版, 9B: pp 48-71, 金原出版, 東京, 1983

- (8) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残し, オリジナルを書留で送付する.
(原稿送付先)
〒606 京都市左京区聖護院川原町54
京都大学医学部泌尿器科学教室
泌尿器科紀要編集部宛
- (9) 論文の採否: 論文の採否は編集委員で決定し, 連絡する.
(10) 論文の加筆訂正: 審査の結果, 編集方針にしたがって原稿の加筆, 削除, および一部分の書き直しをお願いすることがある. また, 編集委員の責任において多少字句の訂正をすることがある.
(11) 校正は初校を著者による責任校正とし, 再校以降は編集部が行う. 著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する.
(12) 投稿にあたっては, 本誌を十分参考にして体裁を守ること.
3. 掲載
- (1) 論文の掲載は採用順を原則とする.
迅速掲載には迅速掲載料を要する. 5 頁以内は30,000円, 6 頁以上は 1 頁毎に10,000円を加算したものを申し受ける.
(2) 掲載料は 1 頁につき和文は 5,500円, 英文は 6,500円, 超過頁は 1 頁につき 7,000円, 写真代, 凸版, トレース代, 別冊, 送料などは別に実費を申し受ける.
(3) 薬剤の効果, 測定試薬の成績, 治療器械の使用などに関する研究論文(治験論文)については, 掲載料を別途に申し受ける.
4. 別冊: 実費負担とし, 著者校正時に部数を指定する.

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, the director's name, key words (less than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al: Prostatic cancer, PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details refer to a recent journal.

編集委員: 吉田 修(委員長) 石神 襄次 前川 正信 宮崎 重
新谷 浩 園田 孝夫 友吉 唯夫

泌尿器科紀要 第34巻 第2号 1988年2月25日 印刷 1988年2月29日 発行
発行 吉田 修 顧問 加藤 篤二 発行所 泌尿器科紀要刊行会
〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室内 電話(075)751-3327(直通)
印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
